

潮音寺だより

第 235 号

平成 15 年 5 月

電話 052-671-4831

ファックス 052-671-4856

E-Mail:choonji@aichi.email.ne.jp

<ホームページ> <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

〒456-0724 名古屋市熱田区伝馬 1 -10-11

異人の作れる悪をも
異人の苦法を受くる
にて非ず。
【無田】『心地観経』



潮音寺什物「鍾馗」

生命あるもの
奪うなかれ

与えられざるは
取るなかれ

男女の仲
淫らなること
慎むべし

嘘偽りは
語らぬよう

酒を飲み
酔い痴れるな
弱れるな

つらいが
不義悪行
なす

ままよと
自らが重ねし
咎と罪

だれあらん
おのれを
自らを苦しめる

忍士(にんし) (娑婆(しゃわ))

●春望(しゆんぼう)

杜甫(とふ)

国破れて 山河在り、
 城春にして 草木深し。
 時に感じて 花にも涙を濺ぎ、
 別れを恨んで 鳥にも心を驚かす。
 烽火 三月に連なり、
 家書 万金に抵る。
 白頭 搔けば更に短く、
 渾て鬢に勝へざらんと欲す。

【通釈】

長安の都は戦乱のために破壊されてしまったが、自然の山や川は昔のまま残っている。

城には相変わらず春が訪れて来たが、草木が生い茂っているのみでもの悲しい。

こんな時世には、花を見ても、楽しいはずなのに、かえって涙ぐんでしまい、心をなごませてくれる小

鳥のさえずりにも(警戒心から)心を驚かすのである。

戦火は三か月もの長い間続き、家族からの手紙はなかなか来ないので、万金にも相当するほど貴重に思われる。

自分の白髪頭をかくと、心労のためか髪の毛が短くなってしまい、冠をとめるかんざしさえも挿せないほどになってしまった。

.....

この杜甫(とふ)七二七(七二七)の「春望」は、日本において、最も有名な漢詩の一つであると思われる。杜甫が安祿山の乱で賊軍に捕まり、長安に幽閉された時の作であります。

春望とは、春の眺めという意味ですが、その春爛漫の景色を見るにつけ、戦禍の惨状に憤り、憂国

の感慨しみ入る作品であります。かの芭蕉も、『奥の細道』の中の『平泉』の節で、

さても、義臣すべつてこの城にこもり、功名一時の義なる。国破れて山河あり、城春にして草青みたり」と、笠うち敷きて、時の移るまで涙を落としはべりぬ。

夏草や兵どもが夢の跡

と、これまた、有名な句を残しています。

戦争は、いつの時代にあつても悲惨なものです。戦争の恐さを忘れかけている日本の政治家、特に、あの米国の大統領には、ぜひ味わってもらいたい詩であります。しかし、おそろくは、この奥深い心情をくみ取ることはできないでしょう。そう思うと、ただ、やり切れなき、無力感で悲しくなり

ます。

今回の米国によるイラク戦争ほど、皆から支持されなかった戦争はなかったでしょう。反戦、反米運動が全世界で広がる中、それを強引に押し切つてまで実行に踏み切つたには、それなりの理由があるのでしょうか。

第二次大戦後、四十年間続いた米国対ソ連という冷戦体制がなくなつて、あえて、それに匹敵する強敵をもつける必要性があつたと指摘があります。九・一一事件も、パキスタンの諜報機関と、なにやら不可解な関係があつたようです。「テロ」や「悪の枢軸」と戦う正義の帝国として君臨し続けるためには、手段を選ばないということでしょうか。犠牲となつた人々の苦痛の声が、大統領に聞こ

えているのでしょうか。

仏典『百喻経』に、こんな話があります。

ある国に、荒々しく惨いことを好む王様がいました。

ある時、政治に筋道がないとこき下ろす者がいるとの噂を耳にし、よく調べもせず、近臣のこゝばを信じて、ひとりの賢い家臣を責め、彼の背中から百両だけの肉をはぎ取らせました。

その後、その家臣の無実を知つた王は、後悔して、千両分の肉を求めて、百両の肉の代わりに彼に与えました。しかしながら、彼の苦痛は少しも去らないで、昼夜苦しみながら、その苦痛を訴えました。王は不思議に思い、近臣の者に尋ねました。

「なぜ、彼はそんなに苦しむの

か。百両の肉の代わりに、十倍の肉を与えたではないか。それでもまだ不足か。」

「大王よ。子の頭を断ち切りましてから、千頭をもつてしましても、その子の死は助かりません。十倍の肉をもつても、いったんはぎ取られた苦痛を、免れ得る道理はございません。」

……………

いかがでありますか。普通に考えれば、こんな愚かで馬鹿な王様はいないだろうと考えるでしょう。しかし、これは、他人の悲しみや苦しみを分かち合うことのできない、慈悲の心が持てない権力者（殆どがそつ）が犯しやすい過ちであります。

ああ、やはりこの世は怨土（おんち）(婆)で、浄土ではないようです。

三昧 さんまい

原語はサンスクリット語でサマーディといひ、「三昧」はそれを音写したもので、その意味は「等持」とか「正定」などと訳されています。要するに、心を一つの対象に集中させて乱さないこと。

よへ「読書三昧」釣

り三昧」などといいますが、何に向かつて心を集中させるかが違うだけで、もとの意味とわりと近い使い方がされているといつてもいいでしょう。

では、仏教の修行においては、何に心を集中させるのかということですが、これは大乘經典では千以上ののぼるさまざまな三昧が説かれていて、とても説明

住職通信

合掌礼拝の
ないところ
真実の宗教は
生まれない



しきれません。心を一つに集中しなければならぬのに、その種類が千以上もあるというものは、何とも奇妙な心を乱す話ですね。

二二二では、分
かりやすく言っ
ておきますと、
三昧のなかでも

もっともすべれた三昧を「王三昧」といいますが、浄土教では「念佛」を「王三昧」といい、禅宗では「坐禅」のじょうをやはり「王三昧」と呼んでいます。

ところで、日本では、火葬場や墓地のことを「三昧」ということもあります。死者の冥福を祈るための三昧堂が省略されたものでしょう。(ひろさちや『仏教監獄百科』)

雑記

感謝 その8



新築庫裏へのご寄付を、高池やる子様、江崎幸雄様、山口康良様、若林幸弘様、菊田輝男様、川口諒様、菊田栄蔵様、青木秀郎様、中川精一様、三浦利夫様、小島鏝次郎様、小島千鶴子様より頂戴いたしました。また、徒弟正道卒業祝いとして、石田秋江様、戸田様より頂戴いたしました。心より感謝申し上げます。(4/18現在)

鐘道 しょうぎ

実は、役人の採用試験に落弟して自殺した人とか。唐の玄宗皇帝の夢に現れ、その病気を治してから、^お除けの神になったそうです。

空青し

元気が泳ぐ鯉^{なまこ}、^{なまこ} 沐魚